

## 漫画を通して伝える ふるさとを思う心

### 市内で活動する漫画家

今年の11月、鳥取県で開催される国際マンガサミット。新年を迎え、鳥取県内ではこのイベントの成功に向けた機運が高まっています。

そんな中、この鳥取市にも、地元の子どもの健やかな成長を願った作品を描き続けている漫画家があります。それが岩田廉太郎さんです。岩田さんは、八坂の自宅にまんが工房を構え、日本海新聞日曜版に連載中の「名将・吉川経家」をはじめ、鳥取の歴史

### まんが工房



漫画家  
岩田 廉太郎 さん  
Rentarou Iwata

や昔話を題材にした作品を数多く発表。昨年12月には、自身の原画約1000点を集めた原画展を開催し、見る人を楽しませました。

### 漫画家とつむのロタ

岩田さんが漫画に興味を持ったのは小学生のころ。弟が借りてきた、石森章太郎さんの漫画に描かれたかわいらしい女の子を見て感激し、自分もこんな絵を描いてみたいと思ったことがきっかけです。

高校卒業後、大阪のスーパ―に就職したものの、漫画に

対する思いが募り、19歳で上京。手塚治虫プロのアシスタントとして漫画家への道がスタートしました。当時は背景を描くことが主な仕事でしたが、その日々は、描いた絵が世に出ることに喜びを感じる暇もないほど忙しいものでした。また、当時の給料は小遣い制。「遊ぶお金がなく、週に3日は徹夜。とにかく描くしかなかったが、それが幸いして今の自分がある」と、岩田さんは振り返ります。そんな厳しい下積み時代が実を結び、22歳で小学館の少年サ



昨年のセル画ワークショップ

ンデーの新人漫画賞に佳作入選。すぐに独立を果たしましたが、連載も読切も掲載できない辛い日々が続きました。

デビューは24歳。秋田書店に作品を持ち込み、同社が発刊する「冒険王」での連載が決定。この作品が「少年探偵団」です。その後も、「ザンボット3」など、多数の作品を世に送り続ける一方、売れる作品づくりに追われ、描きたいものが描けないという悩みを抱え続けていました。

### 鳥取で描く喜びを実感

